

演劇『山脈』上演記録 DVD 上映会

茅野市笹原出身の堀内繁彦さんの御実家には太平洋戦争中に新劇女優の山本安英さん、劇作家の木下順二さんなどが疎開していたそうです。戦後、木下さんは、笹原での体験を下敷きに戯曲『山脈』を執筆、山本さん主演で上演され、代表作のひとつとなりました。

堀内さんは、茅野市笹原がモデルとなっていながら諏訪地方でほとんど語られることのない『山脈』を多くのの人たちに知ってほしいと上演の働きかけを各方面に続けて来ましたが実現には至りませんでした。そんななか 2024 年に名古屋の劇団「戦争を語り継ぐ演劇公演」が上演していたことを知り、問い合わせたところ公演を記録した DVD を借りることが出来、これを多くの人に見てもらうことが出来ればと、無料上映会の開催を呼び掛けていました。

今回の上映会は、この呼びかけに応えたものとなります。一人でも多くの方にご覧いただければ幸いです。



日時 2026 年（令和 8 年）11 月 2 日（月）

18:30~21:00

（上映時間は 2 時間を越えます）

場所 みんなの居場所ゆめひろ

入場 無 料

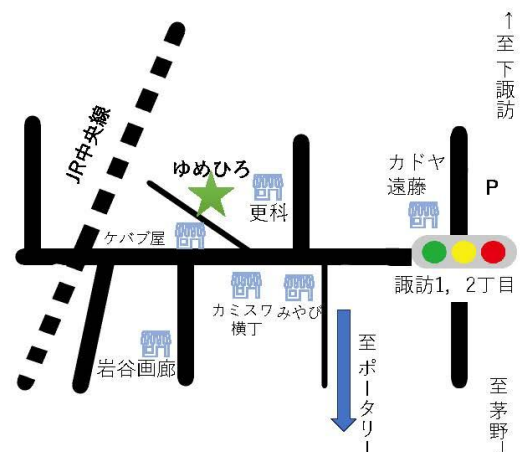
*無料駐車場を紹介できます。必要な方はご連絡ください。

主 催 諏訪の文化探索隊 ゆめひろまち歩き部

問合せ先 〒392-0025 諏訪市末広 1-11（ゆめひろ）

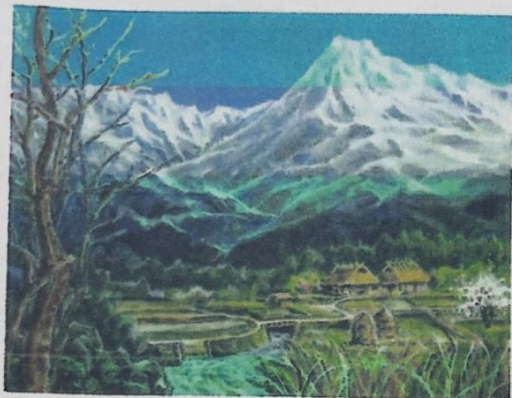
電話 0266（55）8734

メール info@yumehiro.org



時は、1945年（昭和20年）の春から秋にかけて。日本がアメリカ・イギリスなど連合国に無条件降伏して太平洋戦争を終えた年。舞台は八ヶ岳を望む信州の山間の農家。

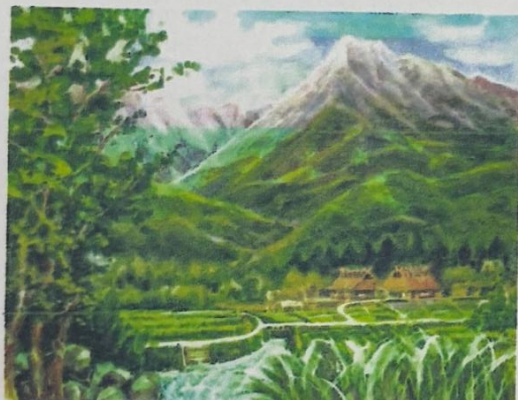
第一幕



春。村上とし子は、日本の農業の構造研究者・山田浩介の紹介で、義母・たまと二人で農家・松原太一の離れに疎開した。夫の省一は応召で兵役に就いていた。太一の跡継ぎである富吉も応召し、農業の負担は家族に申し掛かっていた。

山田は研究者として、農民の我慢と犠牲の上に成り立つ日本の農業は崩壊すると予想して、働き甲斐があって農民の幸せに繋がる農村づくりに役立ちたいと考えて、農村に住むことになったとし子に、農民の生活や深い感情を観察するよう依頼する。とし子と山田は密かに恋愛関係にあった。時は未だ女性の不義は犯罪として裁かれる封建時代であった。

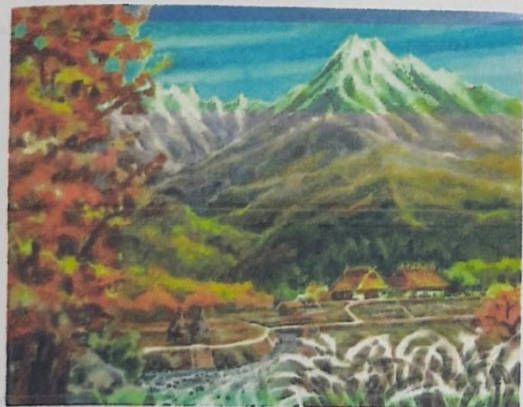
第二幕



夏。とし子の夫・省一が戦死。東京で旧制高校の教師をしていた父親も空襲死した。連日の空襲で、全国の都市は焦土と化していたが、戦争遂行に関わる軍需工場の技術指導者や軍国国民を育てる教師などへの召集は、極力遅らせる方策だった戦争末期の日本。

省一の弟・裕二が母親を慰めるために来る。明るく振る舞う裕二であったが…。もう一人、召集を受け、翌日に広島に軍隊に入隊することになった山田が訪れて、元気そうなし子を見て喜び、とし子を書き留めた農民観察のノートを読んで自分への愛を確かめ、至福の思いに駆られる。空襲で唯一の肉親である父親を亡くし、省一も死んだいま、例え30時間でも山田と一緒に過ごしたい、ともに広島に行くと、とし子は山田に告げるのだが…。

第三幕



広島に原子爆弾。山田の死。終戦。そして秋。奇跡的に生き残ったとし子には、生きる目的がもう無かった。

松原家をとし子が訪れた。大家には、復員した富吉が妻・きぬと住み、太一は、妻・ミツと娘のよし江とともに隠居家である離れに住んでいた。従軍時の心の傷が深く、別人のような振る舞いをする富吉。そんな富吉を叱責するために、元役場職員だった原山作太が訪れる。富吉・原山の思いが交錯する。原山との出会いがとし子の心に一条の光を射す…。